

様式第7号（第11条関係）

介護ロボット導入効果報告書
（ 1年目 2年目 3年目 最終 ）

令和 2年 4月 27日

沖縄県知事 様

令和 元年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 南風原町字宮平499
事業主体名 有限会社寿ランド
代表者職氏名 代表取締役 平良寿成



事業主体名（法人名等）	介護サービス事業所名	介護サービスの種別	
有限会社寿ランド	通所介護デイサービスゆうらく	通所介護	
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介護	Hug		
導入時期	導入台（セット）数	購入日	リース・レンタルの契約期間
令和元年10月8日	1	令和元年9月17日	年 月 日から 年 月 日まで

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標（3年間目処）がどの程度達成できたのかについて、記載すること。

導入して6か月であるが、使用するにつれて職員も利用者もHugに慣れてきている。体重の重く介助が必要な利用者を中心に使用しており、職員の腰の負担軽減は図れている。また、移乗介助に職員が数名取られることが少なくなったため他利用者への支援に充てることができている。

【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】

※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

現在、主に5名の利用者へ使用している。車椅子とベッド（又はトイレ）間の移乗動作時に一人1日3～4回使用している。体重の重い利用者の入浴の際、シャワーキャリーに移乗するときにも使用している。以前は2～3名で行っていた移乗動作を1名で行うことが増えてきた。また、立位訓練時にも使用している利用者もいます。

【介護ロボットの導入効果（使用する業務・使用頻度等）】

※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。

3月に職員向けアンケートを実施。その結果、身体的・精神的負担が軽減できているとの回答が66%であった。主に女性職員が介助の際に使用している。また、アンケートの中で身体的・精神的負担が軽減されることで気持ちに余裕ができるとの意見もあった。職員に移乗介助をしてもらうのを拒否されていた利用者が始めはロボットでも不安そうだったが、使用するうちに慣れてきて拒否なくロボットを使用し、職員1名で移乗介助できた。

【介護ロボットの不都合な点の課題】

※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

認知症のある方などは途中で手を放してしまうので使用できないこと。前屈が不十分だと操作途中で滑ってしまうことがある。安全に使用する為、今後も職員への研修が必要と思われる。

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません



【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。



介護ロボット導入効果報告書

(1年目 2年目 3年目 最終)

令和 3 年 4 月 30日

沖縄県知事

様

令和 2 年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 沖縄県中頭郡西原町字我謝776-5
 事業主体名 株式会社ケアサポートセンター絆
 代表者職氏名 玉城 正史 印

事業主体名（法人名等）		介護サービス事業所名		介護サービスの種別	
株式会社ケアサポートセンター絆		デイサービスセンターきずな		通所介護	
介護ロボットの種別			介護ロボットの製品名		
移乗支援ロボット			Hug L1		
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リース・レンタルの契約期間		
購入	1台	令和2年10月27日	年	月	日から 年 月 日まで
【目標の達成状況】					
①達成項目(複数選択可)					
<input checked="" type="checkbox"/> 身体的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 心理的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 介護時間の短縮 <input type="checkbox"/> 業務の効率化 <input type="checkbox"/> その他 ()					
②達成内容					
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)がどの程度達成できたのかについて、数値指標を用いて記載すること。 週3回の入浴時に車いすからストレッチャーへの移乗時に使用⇒利用者との介護職員の負担は軽減されている。片麻痺の利用者で以前のように抱えて移乗(2名職員)する方法では死角となる身体をストレッチャーや車椅子にぶつけても気付かない事もあるが、1名はロボットの操作、1名は万が一の為に身体全部を見ながら移乗できるようになったので職員の負担と事故防止に役立っている。入浴日は100%使用。介護者の移乗負担も33%減った。					
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】					
※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。					
主に入浴時の車いすからストレッチャーへの移乗に週3回使用。移乗の際にストレッチャー、車椅子に身体が接触して起きる剥離事故はいまの所発生していない。					
【介護ロボットの導入効果（使用する業務・使用頻度等）】					
※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。					
1. 今まで男子職員に頼っていた移乗が女性でも難無く出来るようになった。 2. 利用者もロボットが安心できるとの事 ※今まで体重があるので、職員2名で抱えて移乗⇒移乗する瞬間、力で身体を持ち上げるので利用者の身体にも負担があった。 3. ロボットでゆっくりと移乗できるので、ストレッチャーへ身体をぶつけたりして起こる打撲や剥離のリスクが無くなった					
【介護ロボットの不都合な点の課題】					
※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。					
ロボットを作動させたときに少し持ち上げられることに恐怖を持っている(車いすからお尻が離れる為、支えがないことに恐怖を感じている)利用者もあり、お尻当てのようなもので支える様に出来れば、安心して利用率出来るのでは⇒対応策検討中					

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません



【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。



介護ロボット導入効果報告書
(1年目 2年目 3年目 最終)

令和4年4月28日

沖縄県知事 様

令和3年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 沖縄県島尻郡南風原町新川538番地
事業主体名 社会福祉法人 千尋会
代表者職氏名 理事長 田崎 琢二

事業主体名（法人名等）		介護サービス事業所名	介護サービスの種別	
社会福祉法人 千尋会		介護老人福祉施設 嬉の里	介護老人福祉施設	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名		
移乗介護		移乗サポートロボット Hug T1-02		
導入時期	導入台（セット）数	購入日	リース・レンタルの契約期間	
令和4年3月11日	4台	令和4年3月11日	年 月 日から	年 月 日まで
【目標の達成状況】				
①達成項目（複数選択可）				
<input checked="" type="checkbox"/> 身体的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 心理的負担の軽減 <input checked="" type="checkbox"/> 介護時間の短縮 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の効率化 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
②達成内容 ※介護ロボット導入により達成すべき目標（3年間目処）がどの程度達成できたのかについて、数値指標を用いて記載すること。				
二人対応で排泄介助が必要な入居者に対し、1日平均5回排泄介助を行っているが、ベッドから車いすへ移乗、更に車いすからトイレへ移乗する一連の動作が、介助ロボットHugを導入したことで、一人介助が可能となり、空いた職員一人を他業務、レク活動などに配置出来た。				
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】				
※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。				
二人介助が必要な入居者に対して、常に移乗ロボットを使用している。また、大柄な入居者に対しても、移乗ロボットを使用することで介護職員の負担を軽減しています。				
【介護ロボットの導入効果（使用する業務・使用頻度等）】				
※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。				
二人介助で行っていた介助が一人で行えるようになり、人員を効率的に配置でき、空いた時間で別の業務が可能となり、より良い介護サービスの提供できた。また、職員の腰への負担が大幅に緩和され、労働環境の改善にも繋がり、肉体的負担の軽減が図れた。入居者からは楽な姿勢で移乗できるので、職員に抱えられながら移乗するより、安心感があり身体的・心理的負担が軽減されたとのこと感想がありました。				
見守りセンサーを併用することで、歩行に不安があり転倒リスクのある入居者の動作を検知し、歩き始める前に移乗ロボットを居室へ持って行けるため、一人での介助が可能となった。				
【介護ロボットの不都合な点の課題】				
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。				
特にありません。				

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません



【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。



以下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合に記入すること。

<要件1>

少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うことを予定している。

<p>① 交付申請時の介護職員等の人員体制</p>	<p>(※) 交付申請時の人員体制を記載すること</p> <p>入居者70人に対して 介護職員：昼間27人、夜間4.2人 看護職員：昼間6人、夜間0人 その他職員：昼間9人、夜間0人</p>
<p>② 導入計画時に見込まれた介護職員等の人員体制</p>	<p>(※) 導入計画で示した内容を記載すること</p> <p>入居者70人に対して 介護職員：昼間26人、夜間4人 看護職員：昼間6人、夜間0人 その他職員：昼間8人、夜間0人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗ロボットを活用することで、二人介助で行っていた排泄介助を一人で介助できる。 ・ 二人介助が減ることで、人員体制を見直し介護職員を昼間で1人、夜間で0.2人、その他職員を1人減員できるので、余暇活動に重点に置いた職員配置ができる。 ・ 見守りセンサーで、入居者の体動を把握できるため、事前に移乗ロボットを準備し訪室することが可能となり、二名対応の移乗が必要な入居者でも、移乗ロボットを使用し、一人で移乗することができる。
<p>③ 現在の介護職員等の人員体制</p>	<p>(※) ②と比較可能な記載とすること</p> <p>入居者70人に対して 介護職員：昼間29人、夜間4人 看護職員：昼間6人、夜間0人 その他職員：昼間8人、夜間0人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗ロボットを活用することで、二人介助で行っていた排泄介助を一人で介助出来た。 ・ 人員削減は達成できなかったが、空いた職員を他業務に充てることが出来、介護サービスの向上に繋がっている。また、新職員の研修に空いた職員を充て、新職員のフォローアップすることが出来た。 ・ 見守りセンサーで、入居者の体動を把握できるため、立ち上がる前に移乗ロボットを事前準備し訪室することが出来るため、一人介助が可能となった。
<p>④ ②の見込みと現在の人員体制が異なる場合はその理由</p>	<p>(※) ②と人員体制が異なる場合の具体的な理由を記載すること</p> <p>職員の減員を達成できませんでしたが、移乗ロボットを導入したことで空いた時間を他の業務、レク活動等に配置でき入居者に対する介護サービスの向上につながっている。また、交付申請時の介護職員等の人員体制より、2名介護職員を増員していますが、定期採用による増員となっています。</p>

<要件2>

利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

<p>① 導入計画時に示したケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する具体的な取組</p>	<p>(※) 導入計画に示した取組内容を記載すること</p> <ul style="list-style-type: none">・介助の方法を見直し 業務フローを作成することで、職員全体で業務の統一を図る。・二人介助の排泄介助が減り、ケアに要している時間が空くことで資質向上を目的とした勉強会を実施したり、月平均約3時間の残業時間削減や入居者向けのレク活動や余暇活動に時間を割くことができるため、入居者へのサービス向上が見込める。・介護ロボットやICT機器を活用するために、職員向けの勉強会を月に1回程度開催し、効果的な活用方法、課題点の検証を行い、資質向上に取り組む。時間にゆとりができることで、職員の身体的・精神的な負担軽減が見込めるとともに、入居者に対するサービス向上が図れ、個別ケアの向上につながる。
<p>② ケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する具体的な取組の実績</p>	<p>(※) ①と比較可能な記載とすること</p> <ul style="list-style-type: none">・二人介助対応の介助を見直し 効率的に移乗ロボットを使った介助を職員全体で共有し業務の統一を行った。・二人介助の排泄介助が減り、ケアに要している時間が空いたことで、資質向上を目的とした勉強会を開催できた。・月平均約3時間の残業時間削減や入居者向けのレク活動や余暇活動に時間を割くことが出来たため、サービス向上に繋がっている。・導入後は納品した業者が使用状況確認と訪問が適宜あり、それに併せて移乗ロボットを使用する際の疑問点や、効果的な活用方法など意見交換する勉強会を設け、テクノロジー委員会を中心に介護ロボットの活用促進取り組んでいる。 <p>導入当初職員から、移乗ロボットを活用した介助方法がよく分からず、戸惑っていたが勉強会を重ねるうちに、効率的に機器を活用することが出来るようになった。</p> <p>職員からは、移乗ロボットを導入したことで、入居者を支える動作が減ったことで肉体的に楽になり、腰への負担も軽減したとの意見があり、効果が確実に出ています。</p>

介護ロボット導入効果報告書
(1年目 2年目 3年目 最終)

令和4年4月28日

沖縄県知事 様

令和3年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 沖縄県島尻郡南風原町新川538番地
事業主体名 社会福祉法人 千尋会
代表者職氏名 理事長 田崎 琢二

事業主体名（法人名等）	介護サービス事業所名	介護サービスの種別	
社会福祉法人 千尋会	嬉の里デイサービスセンター	通所介護	
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名		
移乗介護	移乗サポートロボット Hug T1-02		
導入時期	導入台（セット）数	購入日	リース・レンタルの契約期間
令和4年3月11日	1台	令和4年3月11日	年 月 日から 年 月 日まで
【目標の達成状況】			
①達成項目（複数選択可）			
<input checked="" type="checkbox"/> 身体的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 心理的負担の軽減 <input checked="" type="checkbox"/> 介護時間の短縮 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の効率化 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
②達成内容 <small>※介護ロボット導入により達成すべき目標（3年間目処）がどの程度達成できたのかについて、数値指標を用いて記載すること。</small> 二人対応で排泄介助が必要な利用者に対し、1日5回以上排泄介助を行っているが、これまでは椅子から車いすへ移乗、さらに車いすからトイレへ移乗する一連の動作を二人で行っていたが、介助ロボット Hugを導入したことで、一連の介助動作が一人介助で出来るようになり、空いた職員一人をレク活動へ配置することが出来た。			
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】 <small>※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。</small> 二人介助が必要な利用者に対し、常に移乗ロボットを使用している。また、大柄な利用者に対しても、移乗ロボットを使用することで介護職員の負担を軽減しています。			
【介護ロボットの導入効果（使用する業務・使用頻度等）】 <small>※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者（利用者）の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。</small> 二人介助で行っていた介助が一人で行えるようになり、人員を効率的に配置でき、空いた時間で別の業務が可能となり、より良い介護サービスの提供できた。また、職員の腰への負担が大幅に緩和され、労働環境の改善にも繋がり、肉体的負担の軽減が図れた。更に、清拭や臀部の確認などに移乗ロボットを使用することで、楽な姿勢で確認がしやすくなった。利用者からは楽な姿勢で移乗できるので、身体的・心理的負担が軽減されたとのこと感想がありました。			
【介護ロボットの不都合な点の課題】 <small>※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。</small> 特にありません。			

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません



【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。



以下は、補助率「3/4」の適用を受けた場合に記入すること。

<要件1>

少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトを活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うことを予定している。

① 交付申請時の介護職員等の人員体制	(※) 交付申請時の人員体制を記載すること
② 導入計画時に見込まれた介護職員等の人員体制	(※) 導入計画で示した内容を記載すること
③ 現在の介護職員等の人員体制	(※) ②と比較可能な記載とすること
④ ②の見込みと現在の人員体制が異なる場合はその理由	(※) ②と人員体制が異なる場合の具体的な理由を記載すること

<要件2>

利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

<p>① 導入計画時に示したケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する具体的な取組</p>	<p>(※) 導入計画に示した取組内容を記載すること</p>
<p>② ケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する具体的な取組の実績</p>	<p>(※) ①と比較可能な記載とすること</p>

介護ロボット導入効果報告書
(1年目 2年目 3年目 最終)

令和 5年 4月 27日

沖縄県知事 様

令和4年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 沖縄県沖縄市古謝三丁目12番20号
事業主体名 株式会社中部サンケアネット
代表者職氏名 代表取締役 津嘉山洋平

事業主体名（法人名等）		介護サービス事業所名		介護サービスの種別	
株式会社中部サンケアネット		デイサービスセンター美浦		通所介護	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
移乗ロボット		Hug			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リース・レンタルの契約期間		
R5年2月21日	1台	R5年2月21日	年	月	日から
			年	月	日まで
【目標の達成状況】					
①達成項目(複数選択可)					
<input checked="" type="checkbox"/> 身体的負担の軽減 <input checked="" type="checkbox"/> 心理的負担の軽減 <input checked="" type="checkbox"/> 介護時間の短縮 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の効率化					
<input type="checkbox"/> その他 ()					
②達成内容					
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)がどの程度達成できたのかについて、数値指標を用いて記載すること。 HUGを使用し移乗介助することで介護職員の身体的負担が100%改善された。移乗介助への心理的不安は90%改善された（HUGの操作方法に慣れていない従業員がいる）。介護時間の短縮は81%改善された（移乗動作が得意な従業員は、HUG使用しない方が早いと感じている）。男性職員が移乗介助から外れ他業務に費やす時間が増えた為、全体的な業務が効率化されている。※対象介護職員11名へアンケートとヒアリング実施。					
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】					
※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 対象利用者3名へ1人当たり1日4～6回程使用（排泄時の車イス⇔便器への移乗介助、入浴時の車イス⇔シャワーチェアへの移乗、午睡時の車イス⇔ベットへの移乗）。					
【介護ロボットの導入効果（使用する業務・使用頻度等）】					
※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。 男性職員が移乗業務に費やす時間が減ったため、他業務へ回り業務の効率化及び業務偏りへの不満が減った。職員の身体的負担が減った為、腰痛を訴える職員が減った。移乗時の剥離事故が0件となっている。利用者の心理的負担が減り、「これは良いね、自分で立っているみたい」との評価を受けた。					
【介護ロボットの不都合な点の課題】					
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。 機械が大きいため、保管場所をとってしまう。					

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません



【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。



介護ロボット導入効果報告書
(1年目 2年目 3年目 最終)

令和 5年 4月 28日

沖縄県知事 様

令和 4 年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 那覇市辻2-27-1
事業主体名 社会福祉法人 麗峰会
代表者職氏名 理事長 中真 靖

事業主体名（法人名等）		介護サービス事業所名		介護サービスの種別	
社会福祉法人 麗峰会		特別養護老人ホームつじまち		介護老人福祉施設	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
移乗介護		移乗サポートロボットHug T1-02			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リース・レンタルの契約期間		
令和5年 2月 22日	2台	令和5年 2月 22日	年 月 日から	年 月 日まで	
【目標の達成状況】					
①達成項目(複数選択可)					
<input checked="" type="checkbox"/> 身体的負担の軽減 <input checked="" type="checkbox"/> 心理的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 介護時間の短縮 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の効率化 <input type="checkbox"/> その他 ()					
②達成内容					
<small>※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)がどの程度達成できたのかについて、数値指標を用いて記載すること。</small> 導入した移乗介護ロボットは、立位や移乗などの介助の際に、転倒リスクのある利用者に使用。 導入1ヵ月後アンケート結果より、当該介護ロボットを使用している職員6名にアンケートを実施した結果、ほぼ全職員が身体的および心理的負担の軽減とともに、業務効率化の実感があると回答。					
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】					
<small>※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。</small> 導入した移乗介護ロボットは、立位や移乗などの介助の際に、転倒リスクのある利用者に使用。 現在は使用する利用者を限定し、当該1ユニット職員（6名）の使用に限定しているため、今後は使用方法等レクチャーしながら他7ユニット職員（36名）も使用できるようにする。					
【介護ロボットの導入効果（使用する業務・使用頻度等）】					
<small>※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。</small> ほぼ全職員が身体的および心理的負担の軽減とともに、業務効率化の実感があると回答。 (職員の回答一部) ・介助時の身体的負担が減った。 ・腰痛が無くなっている。 ・職員2名体制での移乗介助が必要な方が、1名で楽に介助できているので業務改善に繋がっている。					
【介護ロボットの不都合な点の課題】					
<small>※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。</small> ・介護ロボットの使用方法の指導を細かく行う必要がある。 ・使用する利用者個別に介護ロボットの設定を変える、調整する必要がある。(座高、膝の位置など)					

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません



【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。



介護ロボット導入効果報告書
(1年目 2年目 3年目 最終)

令和 5年 4月 28日

沖縄県知事 様

令和 4 年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 那覇市辻2-27-1
事業主体名 社会福祉法人 麗峰会
代表者職氏名 理事長 中真 靖

事業主体名（法人名等）		介護サービス事業所名		介護サービスの種別	
社会福祉法人 麗峰会		特別養護老人ホームいえしま		介護老人福祉施設	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
移乗介護		移乗サポートロボットHug T1-02			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リース・レンタルの契約期間		
令和5年 2月 21日	1台	令和5年 2月 21日	年	月	日から
			年	月	日まで
【目標の達成状況】					
①達成項目(複数選択可)					
<input checked="" type="checkbox"/> 身体的負担の軽減 <input checked="" type="checkbox"/> 心理的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 介護時間の短縮 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の効率化					
<input type="checkbox"/> その他 ()					
②達成内容					
<small>※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)がどの程度達成できたのかについて、数値指標を用いて記載すること。</small> 導入した移乗介護ロボットは、立位や移乗などの介助の際に、転倒リスクのある利用者に使用。 導入1ヵ月後アンケート結果より、当該介護ロボットを使用している職員4名にアンケートを実施した結果、ほぼ全職員が身体的および心理的負担の軽減とともに、業務効率化の実感があると回答。					
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】					
<small>※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。</small> 導入した移乗介護ロボットは、立位や移乗などの介助の際に、転倒リスクのある利用者に使用。 現在は使用する利用者を限定し、介護職員（4名）の使用に限定しているため、今後は使用方法等レクチャーしながら他介護職員（15名）も使用できるようにする。					
【介護ロボットの導入効果（使用する業務・使用頻度等）】					
<small>※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。</small> ほぼ全職員が身体的および心理的負担の軽減とともに、業務効率化の実感があると回答。 (職員の回答一部) ・介助時の身体的負担が減った。 ・腰痛が無くなっている。 ・職員2名体制での移乗介助が必要な方が、1名で楽に介助できているので業務改善に繋がっている。					
【介護ロボットの不都合な点の課題】					
<small>※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。</small> ・介護ロボットの使用方法の指導を細かく行う必要がある。 ・使用する利用者個別に介護ロボットの設定を変える、調整する必要がある。(座高、膝の位置など)					

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません



【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。



介護ロボット導入効果報告書
(1年目 2年目 3年目 最終)

令和 5年 4月 28日

沖縄県知事 様

令和 4 年度に導入した介護ロボットについて、導入効果を報告します。

住 所 那覇市辻2-27-1
事業主体名 社会福祉法人 麗峰会
代表者職氏名 理事長 中真 靖

事業主体名（法人名等）		介護サービス事業所名		介護サービスの種別	
社会福祉法人 麗峰会		介護老人福祉施設 沖縄一条園		介護老人福祉施設	
介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名			
移乗介護		移乗サポートロボットHug T1-02			
導入時期	導入台(セット)数	購入日	リース・レンタルの契約期間		
令和5年 3月 10日	2台	令和5年 3月 10日	年	月	日から
			年	月	日まで
【目標の達成状況】					
①達成項目(複数選択可)					
<input checked="" type="checkbox"/> 身体的負担の軽減 <input checked="" type="checkbox"/> 心理的負担の軽減 <input type="checkbox"/> 介護時間の短縮 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の効率化					
<input type="checkbox"/> その他 ()					
②達成内容					
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)がどの程度達成できたのかについて、数値指標を用いて記載すること。 Hugを使用した入居者様4名の内、上半身に骨折等の既往歴ある方2名は、痛み等あり、Hugの使用を続行することは出来なかったのですが、他2名に関しては、Hugを導入したことで介護員1名での介助となり、介護員1名の減となりました。さらに介助量も軽減されました。総体的には職員の身体的負担の軽減及び業務の効率化へと繋がりました。					
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】					
※日々の利用状況等が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 導入した移乗サポートロボットHugは、トイレ誘導時に二人介助が必要で、かつ協力動作が得られ、身体機能が保たれている入居者様4名に使用しました。（※Hugに身体を寄せる、肩関節90度、肩外転90度、膝伸展-20度程度の肩関節可動域が必要）					
【介護ロボットの導入効果（使用する業務・使用頻度等）】					
※介護時間の短縮、直接・間接負担の軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等、日々の利用状況が確認できる日誌等の活用や定点観測情報に基づいて具体的に記載すること。					
1. 導入前より身体的負担が減っている (75%) 2. 介助時の不安が減った (75%) 3. 業務改善に繋がっている実感がある (75%)					
【介護ロボットの不都合な点の課題】					
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。 操作の慣れやHugの対象となる入居者様の範囲を広げること等が、現時点における課題です。					

※1年目の提出時には下記も作成してください

【介護ロボット本体の写真】

※介護ロボットの形状がわかる写真を添付、行の大きさは変更して構いません



【介護ロボット使用状況の写真】

※実際にベッドや居室に整備した写真、介護ロボットの使用状況の写真を添付。ホームページに掲載しますのでプライバシーの保護に十分配慮してください。

